



ポレポレの丘奮闘記

長野県伊那市高遠町は、城址公園に咲く小彼岸桜でよく知られるが、これに隣接したポレポレの丘がもう一つの高遠町の名所となりつつある。ポレポレはスワヒリ語で「のんびり」「ゆつたり」という意味だが、城址公園に連なる二・五haほどの傾斜地に花や野菜が栽培される「マイガーデン」、子どもたちが自然の力を五感で感じながら遊べる「プレイパーク」、そしてビオトープ等が組み合わされた複合空間だ。自然と触れ合いながら、一日、ぼんやりしていただくホッとできる空間となっている▼

ここは三〇年以上も耕作放棄されて山林と化していたが、二〇〇五年に赤羽久人氏が中心になって賛同者を集め、「高遠花摘み倶楽部」を立上げて公園化に着手した。その後、何回もの挫折を繰り返し、体制の抜本的見直しをも含めた一〇年もの苦闘を経て、やつと今の姿に辿り着いた。この間の七転び八起きを赤羽氏自らが綴った『ポレポレ×ポレポレの丘奮闘記』（発行：森樹）が出版された。その要諦は「若者、馬鹿者、よそ者」を「のせる」ところにあり、とする▼外から人を呼び込む公園から、子どもたちも含めた地域住民自らが楽しむ公園への脱皮を図ってきた。そしてこれをボランティアによる運営を基本に地域住民の持つ特技を生かしながら手作りしてきた。I・Uターンも含めた地域住民を主役にするることによって、地域の活力が引き出され、これに魅かれて東京等の遠隔地からも人が集まるといふ循環が形成されつつある。地域づくりのヒントが満載の読み応えのある好著となっている。（土着菌）